

共立女子大学大学院 家政学研究科 人間生活学専攻 カリキュラムマップ

NO.	科目区分	科目コード	科目名称	配当年次	単位数	到達目標	DPI-1 客観性・自律性・主体的判断力	DPI-2 課題発見・解決力・社会的役割感	DP2-1課題発見・解決力・問題解決力	DP2-2課題発見・解決力・社会的役割感	DP3-1研究者としての行動	
1	人間生活論領域	2100101	身体機能論Ⅰ(病態生理研究)	1	2	最新の科学的文章から必要な知識を理解し、実験法、実験統計法を理解することができる。	○	○	◎	◎	○	
2	人間生活論領域	2100102	身体機能論Ⅱ(物質代謝研究)	1	2	1.がんや糖尿病性血管障害などの生活習慣病について総合的に理解してその対応策について学習することができる。 2.がんや糖尿病性血管障害などの生活習慣病の話題について関心を持ち、自分の考えについて説明することができる。 3.がんや糖尿病性血管障害などの生活習慣病について、病態とその防衛に關して深く理解することができる。	○	○	○	◎	◎	○
3	人間生活論領域	2100103	身体機能論Ⅲ(健康科学研究)	1	2	集団や社会における栄養素活動の関する研究を行なうにあたり、公衆衛生学的アプローチによる研究法である疫学的手法が修得できるようになる。 1.解剖生理、病理学に関する英語論文を理解できる。一般英語の読解力のみならず、専門用語50%以上理解できる。 2.身体機能に関する基礎的な研究について、批判的に評価し、自らの研究手順を説明できる。 3.米華学の歴史は、範囲の英語の研究論文を自ら選択し、幅広い教養を身に着けることができる。	◎	○	○	◎	◎	◎
4	人間生活論領域	2100104	身体機能論Ⅳ(応用生理研究)	1	2	1.乳児期から青年期までの人の成長に関する諸理論を十分に理解することができる。 2.当該領域の最新の研究動向を求めるために、当該研究領域において各自が関心を持った研究テーマについて問題の所在を批判的思考力に基づいて説明することができる。 3.研究者としての倫理観と社会性を総合的に習得することができるようになる。	○	○	○	◎	◎	○
5	人間生活論領域	2100165	生活主体者論Ⅰ(人間形成研究)	1	2	1.社会福祉の主要な理論の変遷と課題について、「学としての今日の社会福祉」を統合的に理解できるようにする。 2.乳児期から青年期の発達及び発達臨床的課題について、「学としての今日の社会福祉」を統合的に理解できる。 3.研究者としての倫理観と社会性を総合的に修得することができるようになる。	◎	○	○	◎	◎	○
6	人間生活論領域	2100166	生活主体者論Ⅱ(児童福祉研究)	1	2	1.社会福祉の主要な理論の変遷と課題について、「学としての今日の社会福祉」を統合的に理解できるようにする。 2.乳児期から青年期の発達及び発達臨床的課題について、「学としての今日の社会福祉」を統合的に理解できる。 3.研究者としての倫理観と社会性を総合的に修得することができるようになる。	○	○	○	◎	◎	◎
7	人間生活論領域	2100167	生活主体者論Ⅲ(人間発達研究)	1	2	1.乳児期から青年期までの人の成長に関する諸理論を十分に理解することができる。 2.当該領域の最新の研究動向を求めるために、当該研究領域において各自が関心を持った研究テーマについて問題の所在を批判的思考力に基づいて説明することができる。 3.研究者としての倫理観と社会性を総合的に修得することができるようになる。	◎	○	○	◎	◎	◎
8	人間生活論領域	2100114	生活主体者論Ⅳ(発達科学研究)	1	2	1.乳児期から青年期までの人の成長に関する諸理論を十分に理解することができる。 2.各自由の探究心を具体的に脱し、「発達科学」の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 3.各自の探究心を具体的に脱し、「発達科学」の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。 4.近年の「発達科学」の動向における諸問題を見出すことができる。 「住環境の改善」に求められる必要条件には、環境条件や社会条件、経済条件、技術条件など相反する条件が関係するが、これらの条件について深く理解することができる。 「たとえば、既存の建物を改修することができ、実際の建築計画や地域計画のなかで研究を進める」ということである。	○	○	○	◎	◎	○
9	人間生活論領域	2100168	生活文化論Ⅰ(発達環境研究)	1	2	1.「少年文化化社会」における需要や都市の変遷について基礎的な概念を具体的に述べることができるようになる。 ・建築や立ちづくりにおける諸問題を解決していくための基盤となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 ・より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	◎	○	○	◎	○
10	人間生活論領域	2100128	生活文化論Ⅱ(生活環境形成研究)	1	2	1.学術論文の文献を読み取し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.建築や立ちづくりにおける諸問題を解決していくための基盤となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.市場動向や分析方法を理解し、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができるようになる。	○	○	○	◎	◎	○
11	人間生活論領域	2100123	生活文化論Ⅲ(生活デザイン研究)	1	2	1.学術論文の文献を読み取し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.建築や立ちづくりにおける諸問題を解決していくための基盤となる能力を養うことができるようになり、論理的に考察、判断する能力を育成することができるようになる。 3.市場動向や分析方法を理解し、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができるようになる。	○	○	○	○	◎	◎
12	人間生活論領域	2100129	生活文化論Ⅳ(人間空間デザイン研究)	1	2	1.人と環境との関係を総合的に捉えることによって、人の心の変化や行動の特徴などを基盤とした概念を理解することができるようになる。 ・環境に開かれた諸問題を解決していくための基盤となる能力を養うことができるようになる。 ・最終的に、より質の高い快適な環境を計画、デザインすることができるようになる。	○	○	○	○	◎	○
13	人間生活論領域	2100125	生活文化論Ⅴ(生活環境研究)	1	2	1.事例により生活環境が生まれ出す空間「形態」そしてその空間に必要な「もの」の関係性を引き出し、持続可能な居心地の良い建築を創り出す自分なりの方法論を提示することができる。 ・導き出した方法論を実務の設計に応用し、持続可能な居心地の良い建築を創り出すことができる。 ・現地調査による共建築者が社会経済の変化に伴い、今後のよき多様化していくべきか、現状分析すると共に、自分なりの新しい視点を予測することができる。	○	○	○	◎	◎	○
14	人間生活論領域	2100169	生活文化論VI(表現文化研究)	1	2	1.事例により生活環境が生まれ出す空間「形態」そしてその空間に必要な「もの」の関係性を引き出し、持続可能な居心地の良い建築を創り出す自分なりの方法論を提示することができる。 ・導き出した方法論を実務の設計に応用し、持続可能な居心地の良い建築を創り出すことができる。	○	○	○	◎	◎	○
15	人間生活論領域	2100127	生活文化論VII(生活経済研究)	1	2	1.現地調査による共建築者が社会経済の変化に伴い、今後のよき多様化していくべきか、現状分析すると共に、自分なりの新しい視点を予測することができる。	○	○	○	◎	◎	○
16	人間科学領域	2100131	食生活素材論Ⅰ(食品素材研究)	1	2	1.生物の構造分析法について、学部学生、修士学生に説明できる。 2.生物の構造分析法について、学部学生、修士学生に説明できる。	◎	○	○	○	◎	○
17	人間科学領域	2100170	食生活素材論Ⅱ(食品機能研究)	1	2	1.食品の第三機能について、各国の特許可認度を含めて総合的内容を説明できる。 2.特定保健用食品として許可されているすべての開発について、総合的に説明できる。	○	○	○	○	◎	○
18	人間科学領域	2100133	食生活素材論Ⅲ(食品微生物研究)	1	2	1.微生物の発酵製品の製造方法について、最新の知見を織り交ぜて食品ごとに具体的に説明できる。 2.微生物の発酵製品について、最新の知見を織り交ぜて物質ごとに具体的に説明できる。 3.微生物の防腐・除菌方法について、最新の知見を織り交ぜて微生物の生産を終了する工程技術によって新たな機能成分ができる生成するしくみについて、総合的に説明できる。	◎	○	○	○	◎	○
19	人間科学領域	2100134	食生活素材論Ⅳ(食品物理化学研究)	1	2	1.食品の物性的概念について理解し、例を挙げて説明できる。 2.食品の物性的概念について理解し、例を挙げて説明できる。 3.酵母細胞用介離基の基準や求められるタスクチャートに關して説明できる。	◎	○	○	○	◎	○
20	人間科学領域	2100141	衣生活素材論Ⅰ(被服素材研究)	1	2	1.最新の学術論文を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.繊維の物理的構造に関して、すでに解説されていることを把握した上で、未解説問題について説明。今後の展望についても述べることができる。	○	○	○	○	○	○
21	人間科学領域	2100142	衣生活素材論Ⅱ(被服管理研究)	1	2	1.最新の学術論文を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.被服の保管や包装品の管理に関して詳しく理解し、実際の染織品を適切に管理するための課題を見出し、解決方法を自己提案することができる。	○	○	○	○	○	○
22	人間科学領域	2100143	衣生活素材論Ⅲ(被服機構研究)	1	2	1.最新の学術論文を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.ヒート・被服・環境の関係性を正しく理解し、説明できる。 3.評価方法や分析方法を理解し、目的に合わせて確に分析することができる。	◎	○	○	○	○	○
23	人間科学領域	2100153	食生活計画論Ⅰ(調理設計研究)	1	2	1.調理学研究連の研究例を体系化かつ理論的に説明できる。 2.食生活計画の研究例を自ら決定し、資料調査・考察し、英語で発表できる。	○	○	○	○	○	○
24	人間科学領域	2100154	食生活計画論Ⅱ(栄養教育研究)	1	2	1.理諭的基礎と研究を遂行していく上で必要な諸技術、知識を理解して、説明できる。 2.情報収集及び調査データの分析ができる。	○	○	○	○	○	○
25	人間科学領域	2100155	食生活計画論Ⅲ(給食経営管理研究)	1	2	1.給食経営と管理連の研究例を体験的かつ理論的に説明できる。 2.給食経営と管理連の研究データを自ら決定し、資料調査・考察し、総合的に発表できる。	○	○	○	○	○	◎
26	人間科学領域	2100161	衣生活計画論Ⅰ(服飾文化研究)	1	2	1.衣服に関する学術論文の文献を精読し、その内容を理解した上で、服飾文化の変遷について説明できる。 2.衣服の生産的・形態的・機能的变化を正しく理解し、衣服の変遷を説明できる。 3.「小袖」着物の実物調査や分析の方法を理解し、目的に合わせて的確にそれを用いることができる。	○	○	○	○	◎	○
27	人間科学領域	2100162	衣生活計画論Ⅱ(被服心理情報研究)	1	2	1.被服心理学の研究手法を理解し、先行研究の内容を十分理解し、その内容を評議することができる。 2.被服心理の研究手法を理解した上で、仮説検証のための調査設計、実行、結果の分析ができるようになる。	○	○	○	○	○	○
28	人間科学領域	2100163	衣生活計画論Ⅲ(被服形造研究)	1	2	1.学術論文の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2.身体の生長・形態・機能的变化を正しく理解し、説明できる。 3.評価方法や分析方法を理解し、目的に合わせて的確に分析することができる。	◎	○	○	○	◎	○
29	人間科学領域	2100164	衣生活計画論Ⅳ(被服情報工学研究)	1	2	1.ファシズム・プロレタリアのサブライチーンやファッショニアンサービスにおける技術問題を多角的に検討して、客観的かつ正確に説明ができる。 2.コンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、マシンラーニング等の先進事例を調査する方法を修得し、実際に調査した結果を俯瞰的に整理する。 3.学術論文の成果としてまとめることができる。 4.当該分野の専門家に内なるコミュニケーションができる、研究を発展させることができる。	○	○	○	○	◎	○